

# 新しい地域づくりビジョンの策定について

## 1 目的

中長期の社会経済を展望しつつ、2030年の愛知のあるべき将来像と、その実現に向けて2020年までに取り組むべき重点的な戦略を明らかにするとともに、県内各地域の取組方向を示す。

## 2 目標年度

リニア中央新幹線（東京 - 名古屋間）の開通後の2030年頃を展望し、2020年を目標

## 3 策定期期

平成26年3月

## 4 ビジョンの構成

### ◆中長期の社会経済展望と地域づくりの目標

人口や産業経済の見通し等を踏まえつつ、2030年の社会経済を展望し、愛知のあるべき将来像を示す。

### ◆重要政策課題と取組方向

あるべき将来像を実現するために、県民生活、産業経済、県土基盤の各分野にわたって、特に重要となる10程度の政策課題を設定し、2020年までに取り組むべき政策の方向性を示す。

### ◆地域別の取組方向

尾張・西三河・東三河の3地域に分け、それぞれの地域の課題と将来像、取組方向を示す。

※あるべき将来像を実現する上でのいくつかの数値目標を設定

## 5 幅広い意見の聴取・反映

### ◆有識者懇談会

地域を代表する学識者により、地域づくりの課題や対応方向などについて骨太な意見をいただく。

### ◆地域政策懇談会

市町村長及び商工会議所・商工会の代表と知事の意見交換

### ◆市町村との意見交換

市町村の企画担当部局と地域の課題や取組方向などについて意見交換

### ◆地域づくりシンポジウム

県民向けシンポジウムを開催し、地域づくりに関する意見をいただく。

### ◆国・関係団体との意見交換

国地方機関、経済団体、労働団体や地域づくり団体等と意見交換

## 2030年の社会の展望と主な課題

### 2030年の社会の展望

#### ◆人口減少・超高齢社会の進展

- 県の人口は2015年の7,470千人をピークに減少。2030年は7,213千人。
- 2030年の高齢化率は27.7%まで上昇。全国(31.6%)よりは低い水準。
- 団塊の世代が80歳前後となり、支援が必要な高齢者が大幅に増加。

〔年齢3区分別人口の見通し〕 単位：千人、( )は構成比：%

	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳以上
2010年	7,411	1,066 (14.4%)	4,839 (65.3%)	1,506 (20.3%)
2020年	7,440	971 (13.1%)	4,561 (61.3%)	1,908 (25.6%)
2030年	7,213	835 (11.6%)	4,383 (60.8%)	1,995 (27.7%)

#### ◆グローバル経済の進展

- アジアが最大の経済圏に。中国は2025年頃に世界最大の経済大国に。
- 先進国の成長力が低下。世界経済の中での日本のプレゼンスは徐々に低下。
- 世界経済は規模を拡大しつつ、自由貿易の進展などにより相互依存関係を深化。
- 世界のフラット化が進展。ICTの進展等により世界が同じ条件で競争する時代に。

〔世界経済のGDPシェア〕

	日本	中国	インド	アメリカ	ヨーロッパ主要国
2009年	8.8%	8.3%	2.2%	24.9%	17.7%
2030年	5.8%	23.9%	4.4%	17.0%	10.2%

内閣府 世界経済の潮流 (2011年)

#### ◆災害リスクの増大と環境・エネルギーリスク

- 南海トラフの巨大地震がいつ起きてもおかしくない状況。  
⇒今後30年以内に南海トラフ巨大地震(M8以上)が発生する確率：60~70%
- 高度成長期を中心に造られた社会資本の老朽化が進み、更新等の対応が求められる。
- 新興国の経済成長などにより、化石燃料や食料、水資源等の獲得競争が激化。

#### ◆リニア中央新幹線の開業インパクト

- 2027年にリニア中央新幹線の東京-名古屋間が開業。東京-名古屋間が40分で結ばれることにより、5千万人の巨大な大都市圏が形成。
- 名古屋からの2時間交流圏が、現況の8都府県から15都府県に増加(茨城、栃木、埼玉など)。新潟や仙台も3時間圏内に。

### 主な課題

#### <県民生活>

- 健康で安心して長生きできる社会をどうつくっていくか。
- 若者が希望を持ち、活躍できる社会をどうつくっていくか。
- 人や地域が皆で支え合う社会をどうつくっていくか。

など

#### <産業経済>

- モノづくりの力を活かした次世代の産業構造をどうつくっていくか。
- アジアの成長をどう取り込んでいくか。
- TPPなどに対応できる競争力ある農林水産業をどうつくっていくか。
- 愛知の産業を支える人材をどう育成し、確保していくか。

など

#### <県土基盤>

- リニアのインパクトを活かし、求心力ある大都市圏をどうつくっていくか。
- 災害に強く持続可能なインフラ整備、まちづくりをどう進めていくか。
- 愛知のブランド力・魅力をどう高め、発信していくか。

など